

# 神奈川県ネット鎌倉

# 自民党鎌倉市議団

# グイジヨン

# 鎌 夢 会

## 「未来への投資」は信頼に足るか

コロナ禍の収束が見えない中、市民の暮らしと地域経済をどう守るのか、市税の減収にどう対応するかという難題に直面した予算編成でした。コロナ対策に取り組みつつ、徹底した歳出の削減を図り、その一方、市政運営の歩みを止めない「未来への投資」は行う、とのことです。

将来的な税収増につながるまちづくりや教育におけるICT環境の整備などが「未来への投資」という言葉で表現されています。投資は後に回収されるべきものであり、回収の見込みや道筋が適切に説明されなければ、賛同できません。一般会計予算案に反対した理由の一つは、その説明が不十分であったことです。

コロナ禍で再認識されたのは「公」を担う基礎自治体の役割の重要性です。しかし、予算編成のメリハリを見ると、力を傾けているのは、今回も市長が自らの実績としてアピールできる施策でした。この点も一つの反対理由です。

●**公助を先細りさせない福祉**  
仮にマイナンバーカードの普及で行政手続の迅速化が図れたとしても、それだけでは必要とされることに手厚い支援が届くことになりません。重要なのは、支援業務に当たる人の確保です。

コロナ禍の影響を特に大きく受けた非正規雇用やフリーランスの女性に対する支援と

して、相談体制の強化を求めます。

国は「我が事・丸ごと」地域共生社会を掲げていますが、これは住民の互助（共助）を福祉の制度に組み入れ、また規制緩和を進めることにもつながります。鎌倉市は、公助を先細りさせない地域福祉を維持し、新年度開始の包括的支援体制推進事業も、委託頼みとせずに進めるべきです。

●**子どもの育ちと学びの環境**  
GIGAスクールの前倒しにより学校におけるICT環境の整備が急ぎ行われています。新年度にはAIDドリルが導入されますが、授業に占める外部の学習コンテンツの比重が大きくなり過ぎないよう、十分な配慮を求めます。

●**スーパースイッチは劇薬**  
鎌倉市は、スマートシティの取り組みを加速化させるとして国のスーパースイッチ型国家戦略特区の指定に手を挙げます。その特徴は規制緩和とデジタル技術の活用、個人情報を含むデータの蓄積と連携です。限られた分野で市民生活の課題解決につながったとしても、市民による市政のコントロールがこれまで以上に難しくなることを懸念します。

スーパースイッチ路線には強く警鐘を鳴らざるを得ません。

令和3年度一般会計予算はか諸議案に賛成しました。

●**新型コロナウイルス感染症に対する取り組みについて**  
感染状況が継続する中で、支援が行き届いていない市民への対応策を検討していることなど、全ての市民への対応策を検討していることを評価。臨時交付金等を活用した効率的な支援策の早期実施を望みました。また、ワクチン接種を、円滑かつ迅速に実施することができると期待しています。

## ピンチをチャンスに変える年に。

令和3年度一般会計予算はか諸議案に賛成しました。

●**公共施設整備について**  
公共施設再編計画の確実な推進に向けた検討状況を確認しました。整備には施設利用者との丁寧な対話が必要で、取り組みを注視します。

●**ごみ処理問題について**  
生ごみ資源化施設および逗子市焼却施設への運搬のための中継施設など予定する施設整備には、住民の理解と協力が不可欠です。丁寧な説明と住民の声に耳を傾け、取り組みを求めました。

●**暮らしの安全・安心について**  
特殊詐欺被害防止対策としての電話機設置への補助金制度の創設は評価します。防犯カメラの設置補助金等については、県に働き掛ける等、市の取り組みを後押しします。

●**環境への取り組みについて**  
社会の脱炭素化と経済成長を両立させる「グリーン社会」の実現に向けた周知等の活動に取り組みを確認しました。

●**デジタル改革について**  
経済発展と社会課題の解決を両立し、より豊かな市民生活に向け、ICTやAI等のテクノロジの活用を、政策全体にわたり、検討されている状況を評価。早期実現に向けた、より具体的な検討を求めました。

●**学校教育について**  
国の進めるGIGAスクール構想や「令和の日本型学校教育」など学校教育の在り方は、今後も大きく変わると考えます。子どもたちの最適な学びの場の確保に向け、継続した取り組みを望みました。

●**消防について**  
救急活動や消防団の活動に係る装備の充実が図られている点を評価します。

●**積極的な環境保全を**  
カーボンマネジメントの強化、海洋プラスチックの問題、食品ロス削減、再生エネルギーの導入など、鎌倉市が取り組むべき課題は多数あります。それぞれの計画の見直しとエシカル消費などの具体的

行動を分かりやすく、市民や事業者にも周知することを求めました。

●**安定的なごみ処理政策を**  
施設整備については、地元住民に対して十分に説明することを求め、広域で取り組むことや新技術の導入など安定的なごみ処理政策を示すよう求めました。

●**児童・生徒への配慮を**  
コロナ禍でさまざまな行事が中止になるなど、子どもたちを取り巻く環境が変化を余儀なくされています。子どもたちに寄り添った教育の充実を求めるとともに、それぞれに合った学び方や課題解決型の学習の充実を求めました。

●**障がい者の雇用推進を**  
障がい者の就労先に関する相談などの充実とコロナ禍に対する影響を含めた対応を求めました。

●**デジタル利用の支援を**  
市民団体や町内会、デジタルガイド解消などテクノロジー活用の充実を求めました。

## 持続可能なまちづくりの実現を

鎌倉のウィジョンを考える会では、令和3年度の諸議案に対し、感染症対策をはじめ、自然災害などに対する安心・安全なまちづくりの構築およびコロナ禍で冷え込んだ経済の立て直しを求める観点から代表質問・特別委員会で質問し、全ての議案に賛成しました。

●**事業者に必要な支援を**  
コロナ禍で苦境に立たされている各業種の振興が急務です。経営状況を把握し、必要な支援の方策を実施するよう求めました。

●**相談窓口の強化を**  
市民の抱える課題が多様化・複雑化しており、福祉分野の専門性強化と庁内連携を求めました。

●**民有緑地の維持管理支援を**  
近年の風水害による土砂災害などが顕著になり、民有緑地の維持管理に対する費用の援助とその積極的周知を求めました。

●**市民の健康づくりを**  
スマートフォンアプリでの健康管理の推進およびワクチン接種の円滑な実施を求めました。

●**デジタル利用の支援を**  
市民団体や町内会、デジタルガイド解消などテクノロジー活用の充実を求めました。

●**深沢・大船地域の活性化を**  
新駅設置を契機に村岡地区との一体施行によるまちづくりを推進し、鎌倉市全域の持続可能な都市経営を支えるような投資になるよう求めました。また、大船駅東口の利便性向上などを求めました。

●**電子決済の促進を**  
「縁むすびカード」は、市内店舗の方々が電子決済を理解する機会でもありました。人と人の接触を減らすために大切な取り組みです。今後はSDGsつながりポイントとして実施している「まちのコイン」に換金性を持たせ、市の支払いに活用できるようにすれば、電子決済の環境は整っていくことでしょう。

●**マイナンバーカードの普及促進を**  
さまざまな理由により令和

2年度の登録者は急増しました。3月には健康保険証としても活用できるようになり、その活用範囲はどんどん広がっています。その影響は医療関係機関でも同様です。病院のカルテが電子化すれば検査や投薬にかかる各個人の医療費を減らすことも可能となるのです。

●**電子機器で市民と直接つながろう**  
無医村では、タブレットを活用し、リモートでお医者さんに診ていただく事例は増えています。そうした事例を見ればタブレット、スマートフォン、パソコン、いずれかの環境を市民の方がお持ちならば市役所と直接双方向でつながれます。こうした環境を段階的に構築していくべきです。全小・中学生に貸与しているタブレットを支給に切り替えることも環境整備の近道です。

●**人的サポートが重要**  
最新技術を取り入れ市民生活の利便性を向上させる際、最も重要なことは一人として取り残さないことです。庁内が電子化され、人的配置を減らせるようになったら、その人員を市民の方の支援に回すべきです。激動の変革期には、アナログフォロワーが最も重要になるのです。

市役所に行かなくてよい市役所目指して！

令和2年度はコロナ禍に翻弄された年度でありました。目に見えない感染の恐怖は、いまだに続いています。そして、その影響は医療関係機関でも同様です。病院のカルテが電子化すれば検査や投薬にかかる各個人の医療費を減らすことも可能となるのです。

## 市役所に行かなくてよい市役所目指して！

令和2年度はコロナ禍に翻弄された年度でありました。目に見えない感染の恐怖は、いまだに続いています。そして、その影響は医療関係機関でも同様です。病院のカルテが電子化すれば検査や投薬にかかる各個人の医療費を減らすことも可能となるのです。

●**電子投票に向けて**  
マイナンバーを活用すれば電子投票も可能になります。密になる投票所での投票を回避できるよう国に働き掛けるべきです。

●**電子機器で市民と直接つながろう**  
無医村では、タブレットを活用し、リモートでお医者さんに診ていただく事例は増えています。そうした事例を見ればタブレット、スマートフォン、パソコン、いずれかの環境を市民の方がお持ちならば市役所と直接双方向でつながれます。こうした環境を段階的に構築していくべきです。全小・中学生に貸与しているタブレットを支給に切り替えることも環境整備の近道です。

●**人的サポートが重要**  
最新技術を取り入れ市民生活の利便性を向上させる際、最も重要なことは一人として取り残さないことです。庁内

が電子化され、人的配置を減らせるようになったら、その人員を市民の方の支援に回すべきです。激動の変革期には、アナログフォロワーが最も重要になるのです。

●**マイナンバーカードの普及促進を**  
さまざまな理由により令和

2年度の登録者は急増しました。3月には健康保険証としても活用できるようになり、その活用範囲はどんどん広がっています。その影響は医療関係機関でも同様です。病院のカルテが電子化すれば検査や投薬にかかる各個人の医療費を減らすことも可能となるのです。

●**電子投票に向けて**  
マイナンバーを活用すれば電子投票も可能になります。密になる投票所での投票を回避できるよう国に働き掛けるべきです。

●**電子機器で市民と直接つながろう**  
無医村では、タブレットを活用し、リモートでお医者さんに診ていただく事例は増えています。そうした事例を見ればタブレット、スマートフォン、パソコン、いずれかの環境を市民の方がお持ちならば市役所と直接双方向でつながれます。こうした環境を段階的に構築していくべきです。全小・中学生に貸与しているタブレットを支給に切り替えることも環境整備の近道です。

●**人的サポートが重要**  
最新技術を取り入れ市民生活の利便性を向上させる際、最も重要なことは一人として取り残さないことです。庁内

が電子化され、人的配置を減らせるようになったら、その人員を市民の方の支援に回すべきです。激動の変革期には、アナログフォロワーが最も重要になるのです。

●**マイナンバーカードの普及促進を**  
さまざまな理由により令和

2年度の登録者は急増しました。3月には健康保険証としても活用できるようになり、その活用範囲はどんどん広がっています。その影響は医療関係機関でも同様です。病院のカルテが電子化すれば検査や投薬にかかる各個人の医療費を減らすことも可能となるのです。

●**電子投票に向けて**  
マイナンバーを活用すれば電子投票も可能になります。密になる投票所での投票を回避できるよう国に働き掛けるべきです。